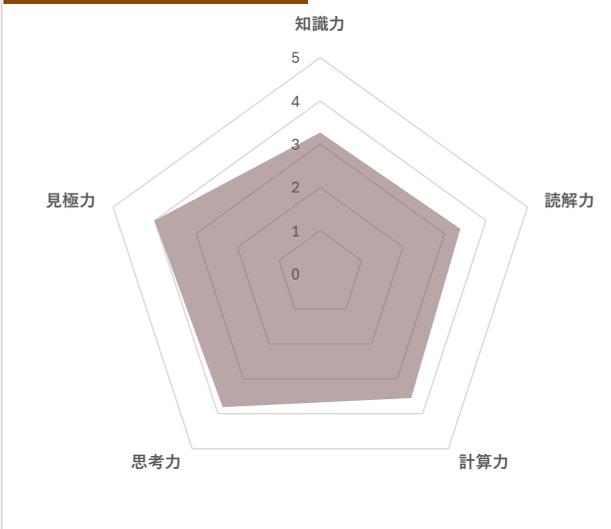


総合分析

試験区分 一般（前期）

制限時間 60分（理科2科120分） 大問数 全4問

合格に要する能力（5段階）



出題分野

理論	53%
無機	3%
有機	44%

本年度出題テーマ一覧

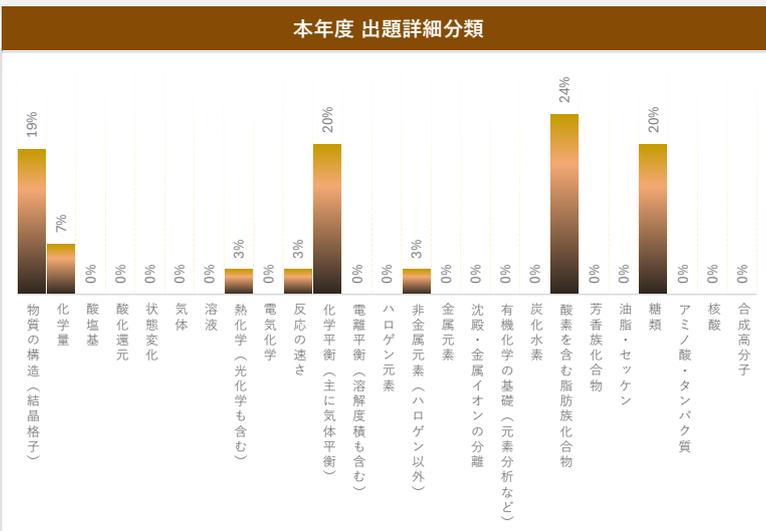
第1問	周期律、物質の分離・精製、濃度
第2問	ハーバー・ボッシュ法と平衡
第3問	麻酔薬の構造決定
第4問	デンプン

本年度 解答形式

答えのみ記述 100%

合格に要する能力（5段階）

知識力	3.1	物質，反応，解法の知識
読解力	3.2	問題文から必要な情報を抽出できるか
計算力	3.4	手際よく正確に計算できるか
思考力	3.6	基礎知識や問題文から推測する力
見極力	3.8	解きやすい問題を選択する力



特殊問題の有無	数値計算あり	グラフあり	正誤問題なし	理由記述あり	図表あり
---------	--------	-------	--------	--------	------

特記事項 特になし

総合評価

難度	3.4	最難を5とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）	83%
分量	70分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや多い	極めて高い正答率を要する	

入試の特徴と対策 強い特徴や偏りが無いバランスがとれた入試である。特別な対策は必要とせず標準的な高校化学の学習でよい。

入試から見る大学が求める学生像 本年度は平易であったが、「私立医学部の御三家」の名に相応しい難しい問題が出題されるので、十分な実力を身につける必要がある。化学の実力が身についているかどうかや数理的な処理が正しくできるかどうかを問われており、良問である。また過去に類似のテーマの問題も出題されているので、対策によって点数を上げることができる。